

学校の適正化に関するアンケート調査のご協力をお願い

宇陀市学校適正化推進委員会
委員長 山本 敏久

皆様には、日ごろから本市行政に対して格別のご理解・ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、全国的に少子化が進む中、本市においても小・中学生の数は、この20年で半分になるペースで減り続け、多くの学校でクラス替えができないなど、学校の小規模化が進んでいます。

一方でこれからの学校は、子どもたちが自分のよさや可能性を発揮し、多くの人々と協働しながら予測困難なこれからの社会の変化を乗り越える力を身に付けることを求められています。

本市では未来を担う子どもたちに、たくましく生きる力を身に付けるための学習環境を整備し、魅力ある学校づくりにつなげることを目的に、宇陀市学校適正化推進委員会（以下、「推進委員会」という）において将来の小・中学校の具体的な姿について検討を進めています。

この調査は、今後の推進委員会における資料とするために、皆様のご協力をお願いするものです。この調査の回答は、上記の目的以外に使用することはありませんので、趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

<記入上の注意>

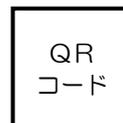
このアンケート用紙またはスマートフォン、パソコンいずれかの方法で1回のみ回答いただきますようお願いいたします。

1 このアンケート用紙による回答

回答は、() 内に指示がある場合を除き、1問につき一つだけ番号を○で囲んでください。また、記入いただいたアンケート用紙は、お子様を通じて学校または園に届けていただきますようお願いいたします。(複数のお子さんを市内の学校、園に通わせている場合は、いずれかの学校、園に届けてください。) → 【同封の返信用封筒に入れて、2月16日(木)までに投函していただきますようお願いいたします。(一般市民用)】

2 スマートフォンによる回答

右のQRコードにより、回答いただきますようお願いいたします。



3 パソコンによる回答

インターネット上で、ブラウザの検索窓に「<https://forms.gle//〇〇〇>」を入力し、表示された画面から回答いただきますようお願いいたします。

アンケートへの回答は、令和5年2月16日(木)までにお願いいたします。

お問合せ先：宇陀市教育委員会事務局 教育総務課 ☎0745-82-3973

1 基本情報について

問1 あなたのお住まいの地域をお答えください。

- 1 大宇陀 2 菟田野 3 榛原 4 室生

問2 あなたの年齢をお答えください。

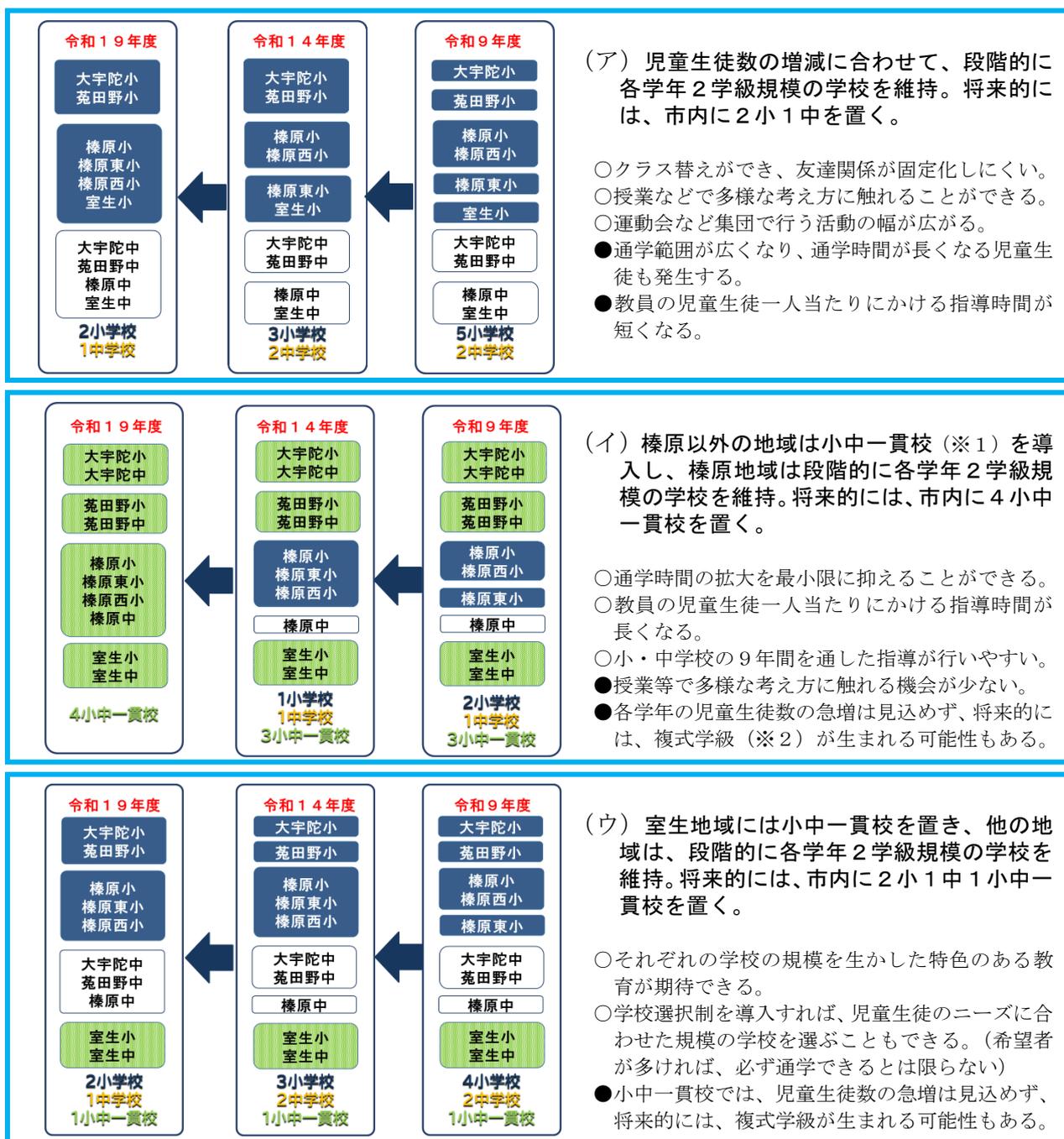
- 1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代
5 50歳代 6 60歳代 7 70歳以上

問3 あなたのお子様に通っている学校、園をお答えください。(複数の学校、園にお子様を通わせている場合は、該当する学校、園に○)

- 1 榛原幼稚園 2 榛原東幼稚園 3 大宇陀こども園 4 菟田野こども園
5 室生こども園 6 榛原北保育園 7 しらゆり保育園 8 大宇陀小学校
9 菟田野小学校 10 榛原小学校 11 榛原東小学校 12 榛原西小学校
13 室生小学校 14 大宇陀中学校 15 菟田野中学校 16 榛原中学校
17 室生中学校

2 学校適正化について

現在、推進委員会では、将来の小・中学校の具体的な姿として、次の（ア）～（ウ）の3つの案が提案されています。



※1 「小中一貫校」…小・中学校の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた系統的な教育を目指す学校。小学校教員が中学校教員を、中学校教員が小学校教員を兼ねることにより、小学校における教科担任制など柔軟な指導体制を組むことができる。

※2 「複式学級」…2つ学年の児童数が合わせて16人（第1学年を含む場合は8人）以下となる時、1つの学級を編制することが法律で定められている。このことにより、複式学級では基本的に、2つの学年の学習指導等を、一人の学級担任で行う。

問4 今後、宇陀市の学校適正化を進める上で、どの案を基本に考えるのが適切だと思いますか。

- 1 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 4 分からない

問5 問4で1～3のいずれかに○を付けた理由として、最も適当なものを次から選んでください。
(3つ以内に○)

- 1 子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことが期待できるから
- 2 子ども一人一人にきめ細かな教育を受けることが期待できるから
- 3 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身に付けることが期待できるから
- 4 たくさんの友だちや先生と触れ合うことが期待できるから
- 5 地域のよさを生かした特色のある教育が期待できるから
- 6 部活動が充実することが期待できるから
- 7 9年間を通した切れ目のない教育により、中1ギャップの解消などが期待できるから
- 8 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問6 小中一貫校として小規模校を維持する場合、少人数を生かした魅力ある教育を行うために、1学級当たり、最低限何人くらいの子どもの数が必要だと思いますか。

- 1 1～5人 2 6～10人 3 11～15人 4 16～20人

3 学校選択制について

学校選択制とは、教育委員会が保護者の希望に基づいて、子どもの通う学校を指定する制度です。推進委員会では、子どものニーズに合わせて学校を選べる学校選択制の導入についても議論されています。

問7 将来、規模の異なる小中学校の中から、あなたのお子さんやお孫さん等を通わせる学校を自由に選ぶことができた場合、通わせたい学校は次のうちどれですか。

- 1 規模に関係なく、できるだけ通学時間のかからない自宅の近くにある学校
- 2 通学時間は伸びても、個に応じたきめ細やかな教育などが期待できる比較的人数の少ない学校
- 3 通学時間は伸びても、子ども同士で切磋琢磨^{せつさたくま}する教育などが期待できる比較的人数の多い学校

ご協力ありがとうございました。